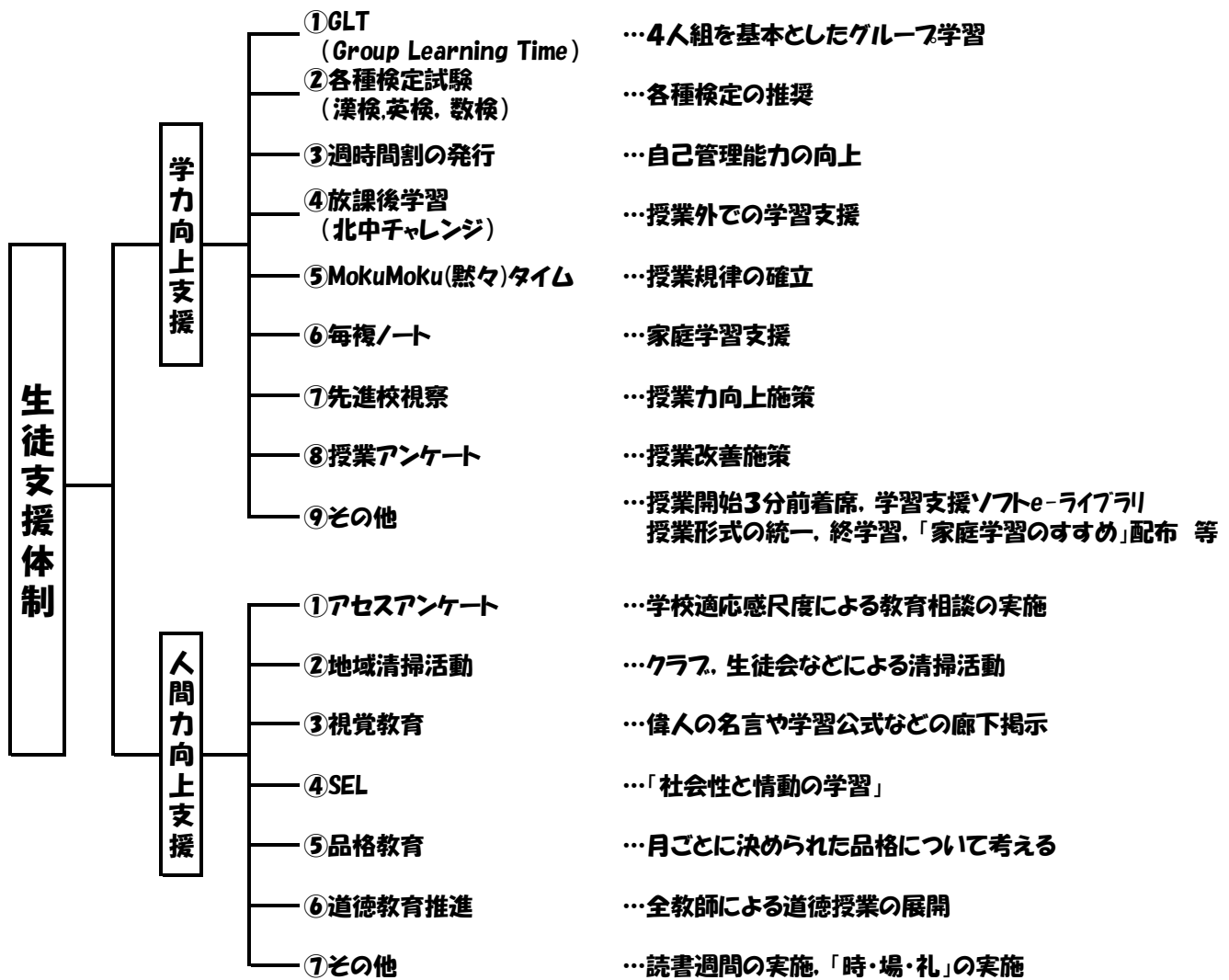


○本校の取り組みについて



1. 「GLT (協同学習)」

本校では4年前よりG(グループ)L(ラーニング)T(タイム)として「生徒同士がともに学び合う」活動を授業に取り入れている。4人のグループを作り、ともに教え合い、学び合う活動である。授業の中に、生徒同士の学び合い活動を取り入れることにより、受身的な授業ではなく積極的な学び合いを通して、より深い知識の獲得を目標としている。また、分からない部分をいつでも聞きあえる環境を作ることにより、より安心して学習に取り組むことができる。学び合いを通して、クラスの仲間意識の向上にもつながることにより、より楽しい環境での学びが成立すると考えられる。



2. 「SEL（社会性と情動の学習）」



良好な対人関係を形成するためのスキルトレーニングである。本来ならば成長過程の中で、自然と養われていくべき能力であるが、幼少期の環境の中でそのスキルがうまく習得できないまま中学校へと入学していることが、アセスのアンケート結果よりわかった。そのため良好な交友関係を形成することが苦手な生徒が少なくない。中学校の本来の目的である社会へと生徒を導く進路指導を見据え、社会性のスキルを学習するためのプログラムとして「SEL」に取り組むこととした。

【SEL の概要】

対立解消スキル，問題解決スキル，共感スキル，コミュニケーションスキル，自己理解など
⇒「学習プログラムで育成を図る社会的能力」

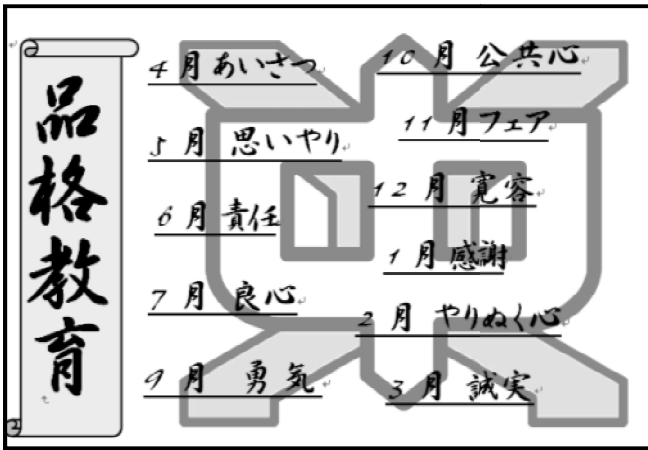
- ・ 自己への気づき…自分の感情を根拠に基づいて現実的に自己評価できる。
- ・ 他者への気づき…他者の感情を理解し、自分の身に置き換えて考えられる。
- ・ 自己のコントロール…情動の制御と、適切に行動できる力の育成。
- ・ 対人関係…情動の抑制や発揚による、良好で協力的な関係作り。
- ・ 責任ある自己決定…他者への配慮もしながら、やることの優先順位をつける。
- ・ 生活上の問題防止のスキル…基礎的社会的な能力。
- ・ 人生の重要事態に対処する能力…環境移行事態にどう対応するか。
- ・ 積極的、献身的な奉仕活動…周囲に対する自発的なちょっとした手伝いなど。

SEL 年間予定（平成 28 年度実施分）

4 月	「どうぞよろしく」（あいさつ）
5 月	「“聞く” と “聴く”」（思いやり）
6 月	「わかりやすく伝えよう」（責任）
7 月	「短所を乗り越える」（良心）
9 月	「ストップ！いじめ」（勇気）
10 月	「学校でのミニボラ？」（公共心）
11 月	「いろんな意見」（フェア）
12 月	「友達が怒っちゃった！？」（寛容）
1 月	「ありがとうカード」（感謝）
2 月	「ポジティブに考えよう」（やりぬく心）
3 月	「“私” のいいところ」（誠実）

「社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方」ミネルヴァ書房 より

3. 「品格教育」



上記の「SEL」と合わせて、品格教育に取り組む。方法として、道徳授業を通し品格・品性について学び、自己を振り返る中で、仲間と磨き合い良い習慣を形成するとともに、規範意識を向上させる。月ごとに目標を定め全校挙げて取り組むことをしている。その月ごとの目標をサポートする形で「SEL」と連動させることにより、その効果をより高いものへとするような取り組みを行っている。「SEL」も「品格教育」も「道徳」の内容と近い。本校では「SEL」をスキルトレーニングという特性上、生徒の活動場面を多く取り入れた実践形式の授業として展開している。

また、「品格教育」を心の教育とし、考え、感じ、それを伝え合う授業として展開している。

4. 「ピア・サポート」

生徒同士の支えあいを年間を通して体系的に組み立てていく取り組みである。体育大会、文化発表会などの学校行事を利用したりとさまざまな場面で計画的に展開する。学年間、または学年を越えて生徒同士の支え合いを行う中で、サポートする側に責任感と自己肯定感を、される側に安心感と次のサポートにつながるスキル獲得を目標とする。本年度は1年目ということもあり、計画のみにとどまっているため29年度より実施予定である。

4つのプログラムを相互に作用するように年間の行事に組み込むことで、学校生活全体の中で生徒の人間力の向上を図る。その指標としてアセスを活用し、教育相談に活かす。

【大庄北中学校生徒支援 PDCA サイクル】

